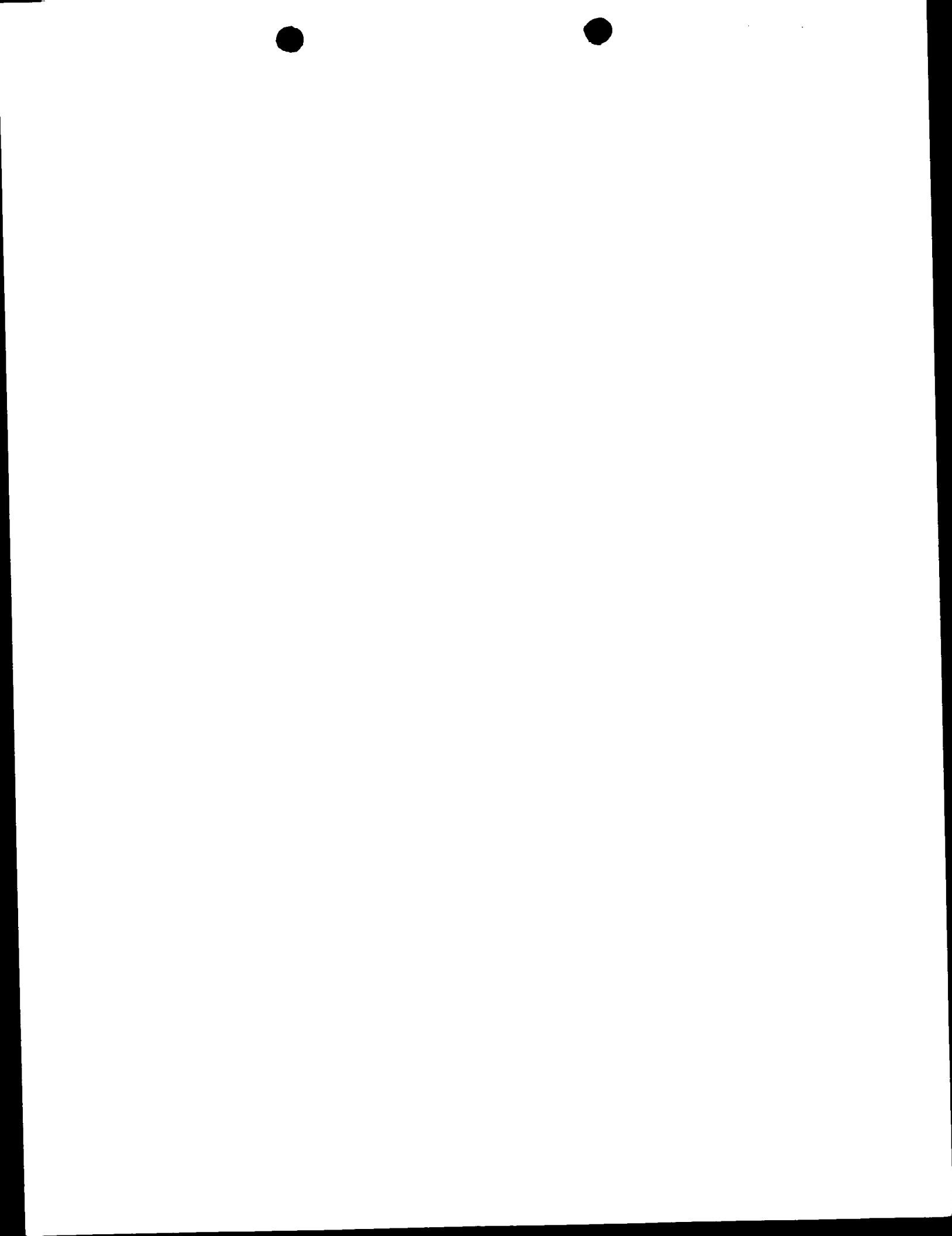


L1 ANSWER 1 OF 1 WPIINDEX (C) 2002 THOMSON DERWENT
AN 1987-087910 [13] WPIINDEX
DNN N1987-065969 DNC C1987-036427
TI Artificial blood vessel with good patency - formed from an elastomer with a contact surface with blood having pores and holes.
DC A18 A25 A96 D22 P32 P34
IN KIRA, K
PA (KANF) KANEKA FUCHI KAGAKU KOGYO KK; (KANF) KANEKA FUCHI CHEM
KK
CYC 6
PI EP 216149 A 19870401 (198713)* EN 10p
R: DE FR GB IT
JP 62044260 A 19870226 (198715)
JP 62064361 A 19870323 (198717) <--
US 4725273 A 19880216 (198810) 9p
DE 3666530 G 19891130 (198949)
JP 02062264 B 19901225 (199104)
EP 216149 B 19911204 (199149)
R: DE FR GB IT
DE 3682734 G 19920116 (199204)
JP 04071547 B 19921116 (199250) 7p A61F002-06
ADT EP 216149 A EP 1986-111543 19860820; JP 62064361 A JP 1985-202411
19850912; US 4725273 A US 1986-897970 19860820; JP 02062264 B JP
1985-186050 19850823; JP 04071547 B JP 1985-202411 19850912
FDT JP 04071547 B Based on JP 62064361
PRAI JP 1985-186050 19850823; JP 1985-187137 19850826; JP 1985-202411
19850912
REP A3...8740; EP 117072; EP 130401; No-SR.Pub; US 4254180; EP 128501
IC ICM A61F002-06
ICS A61F002-04; A61L027-00
AB EP 216149 A UPAB: 19930922
Artificial vessel has a wall made of an elastomer having a porous
structure and the contact surface with blood has pores with a mean dia. of
1-100 microns and holes with a mean dia. of 0.01-10 microns. The vessel
may be reinforced with tubular material made of fibre.
Pref. elastomers for forming the vessel are polystyrene,
polyurethane, polyolefin and polyester elastomers. Suitable reinforcing
fibres are formed from e.g. rubber type fibres, polyurethane elastic type
fibres and polyester elastic type fibres. The vessel may be prep'd. by (a)
coating an elastomer soln. contg. pore-forming agent on a mandrel and
drying, (b) further coating the same elastomer soln. on the dried mandrel
then immersing into a coagulating liq. to deposit the elastomer and (c)
repeating (b) to give the desired thickness, then pulling the mandrel out
and completely removing the pore-forming agent and the solvent.
USE/ADVANTAGE - The vessel has the porosity, the contact surface with
blood suited for encapsulation and has good patency. Also it has the
compliance approximate to that of a vital vessel and when reinforced, the
stress-strain curve of the vessel can be approximated to that of a vital
vessel. When reinforced it can be subjected to sterilisation by boiling or
by high-pressure steam. The vessel can be easily penetrated by a surgical
needle and a bore formed by a needle can be closed itself and kinking
cannot be formed. The vessel can be used as an artificial vessel for
by-pass, a material for patch, in vascular reconstruction surgery of a
vital vessel and as a blood access.
0/2
FS CPI GMPI
FA AB
MC CPI: A12-V02; D09-C01B



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭62-44260

⑫ Int.Cl.
A 61 L 27/00

識別記号
府内整理番号
B-6779-4C

⑬ 公開 昭和62年(1987)2月26日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全 7 頁)

⑭ 発明の名称 開存性に優れた人工血管

⑮ 特願 昭60-186050

⑯ 出願 昭60(1985)8月23日

⑰ 発明者 吉良一明 神戸市須磨区竜が台1-12-33-1303

⑱ 出願人 鎌淵化学工業株式会社 大阪市北区中之島3丁目2番4号

⑲ 代理人 弁理士 朝日奈宗太 外1名

明 材

1 発明の名称

開存性に優れた人工血管

2 特許請求の範囲

1 管壁がエラストマーで構成された多孔体からなり、血液接触面に平均径1~100μmの孔と平均径0.01~10μmの穴とが存在する開存性に優れた人工血管。

2 構成で構成された管状物で補強された特許請求の範囲第1項記載の人工血管。

3 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は開存性に優れた人工血管に関する。

[従来の技術]

近年、血管外科手術の進歩とともに人工血管の研究も進み、数多くの人工血管が開発されてきている。現存、管内径約6mm以上の中口径あ

るいは大口径動脈用人工血管としては、たとえば米国USCI社製のダクロンの織物であるドバイスキーアートificial人工血管や米国ゴア社製の延伸ポリテトラフルオロエチレン（以下、EPTFEという）からなるゴアテックスなどが臨床に用いられている。

これらの人工血管は、血管の内側から外側まで連通している孔を有しており、生体に埋入後すみやかに器質化され、人工血管としての使命を果たしている。このように人工血管の器質化に役立つ連通孔を有することを、以下、有孔性と有するという。

しかし、これらの人工血管は、開存性（血管のつまりにくさ）に劣り、静脈用人工血管や内径約6mm以下の小口径動脈用人工血管として臨床に使用できないなどの欠点がある。たとえば頭から下の動脈や冠状動脈一大動脈バイパスなどの血行再建手術には、自家静脈が使用されているのが現状である。

前記のような開存性が劣り、静脈用人工血管

特開昭62-44260(2)

や内径約6mm以下の小口径動脈用人工血管として臨床に使用できないなどの現在の人工血管の欠点を改良し、優れた開存性を有する人工血管をうるためには、器質化に適した有孔性を有することに加えて生体血管に近似したコンプライアンスを有することおよび器質化に適した血液接触面を有することが重要であると考えられる。

本発明者は、既に管壁がエラストマーからなる多孔体から構成された人工血管が、生体血管に近似したコンプライアンスと器質化に適した有孔性と血液接触面とを有し、開存性に優れていることを見出し、特許出願してきている(特開昭59-39077号、同59-39971号、同59-39972号、同59-44396号、同59-44397号、同59-44398号、同59-51768号、同59-52674号、同59-89131号各明細書)。

〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明は前記3つの重要な性質を併有し、さらに優れた開存性を有する人工血管の開発をするため、とくに器質化に適した血液接触面を有

する人工血管を提供することを目的としてなされたものである。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は、本発明者の開発した人工血管において、血液接触面に特定の平均径の孔と穴とを存在させることにより、さらに開存性が向上することが見出されたことによりなされたものであり、管壁がエラストマーで構成された多孔体からなり、血液接触面に平均径1~100μmの孔と平均径0.01~10μmの穴とが存在する開存性に優れた人工血管に関する。

〔実施例〕

本明細書にいう血液接触面とは、人工血管の内側表面、つまり血液と接触する面のことである。

第1図は本発明の人工血管の血液接触面の一例を走査型電子顕微鏡で約1000倍に拡大した写真にもとづく説明図であり、血液接触面は孔(1)と孔(1)を形成しているエラストマー部分(2)とエラストマー部分(2)に存在する穴(3)とからなって

いる。

本明細書にいう孔とは、人工血管の管壁を単独で貫通している管、あるいは管壁表面に存在するへこみが管壁内部の空隙と連通して管壁を貫通しているもののことで、実質的に底のない構造のものである。

また穴とは底を有し、実質的に凹の構造を有するもののことである。

前記孔の平均径は1~100μmであり、さらに5~50μmが好ましく、とくに10~30μmが好ましい。該平均径が1μmより小さくなると人工血管の器質化が遅くなり、孔径が100μmをこえると血流がみだされて抗血栓性が低下する。

前記穴の平均径は0.01~10μmであり、さらに0.1~5μmが好ましく、とくに0.5~3μmが好ましい。該平均径が0.01μmより小さくなると器質化に対する穴の効果が現われず、10μmをこえると血液接触面の強度が低下したり、孔と穴とが結合した不均一な形状を有する部分が生じたりして抗血栓性が低下する。

前記孔や穴の形状、分布状態、単位面積当たりの数、孔と穴との比率などにはとくに規定はないが、形状としては円形、橢円形、これらに類似の形状であることが好ましく、分布状態としては孔や穴が血液接触面に実質的に均一に分布することが好ましく、単位面積当たりの数としては孔で $0.1 \times 10^3 \sim 20 \times 10^3$ 個/cm²が好ましく、 $0.5 \times 10^3 \sim 13 \times 10^3$ 個/cm²がさらに好ましく、穴で $1 \times 10^3 \sim 200 \times 10^3$ 個/cm²が好ましく、 $10 \times 10^3 \sim 150 \times 10^3$ 個/cm²がさらに好ましく、孔/穴の数での比率としては1/1~1/1000が好ましく、1/5~1/100がさらに好ましい。

該孔は新生内膜などのアンカーとしての役割を果し、迅速かつ安定な器質化を促進し、穴はエラストマー部分と血液の接触面積を少なくすることにより抗血栓性を向上させていると考えられる。

なお本発明の人工血管の血液接触面に存在する孔や穴の寸法や形状とは、血液接触面に開口している部分の寸法や形のことであり、孔の平

特開昭62-44260(3)

均径または穴の平均径とは、血液接触面 $2.5 \times 10^4 \text{ mm}^2$ 当りに存在する孔または穴の最大径を測定し、相加平均した値である。

本発明の人工血管の管壁はエラストマーで構成された多孔体から形成されている。

該エラストマーからなる多孔体には、内側表面から外側表面まで厚さ全体にわたって貫通する孔が存在しており、有孔性を有している。該孔を形成している隔壁はエラストマーからなり、連続的につながっている。さらに前記隔壁自身も、その内部に微小な孔や穴を多数含有することが人工血管が頑な構造となり、生体血管に近似したコンプライアンスを有する人工血管をうるために好ましい。

とくに好ましい多孔体は、管壁の内側から外側まで厚さ全体にわたって実質的に均一な径の孔が存在する網目状構造である。

管壁の内側表面近傍部分と外側表面近傍部分には、多孔体の大部分を占める両者の間の部分に比しやや密になっていて、孔が厚さ全体にわ

たって均一でないことがある。しかし、それが有孔性を損ねるほど極端なものでなければ孔は実質的に均一と解してよい。該孔の管壁内部の横断面の平均径にはとくに限界はないが、内側表面の孔の平均径が $1 \sim 100 \mu\text{m}$ であるから $1 \sim 100 \mu\text{m}$ であることが好ましく、 $3 \sim 75 \mu\text{m}$ であることがさらに好ましい。平均径が $100 \mu\text{m}$ より大きくなると強度が劣ったり、有孔性が大きくなりすぎる傾向にあり、 $1 \mu\text{m}$ より小さくなると有孔性が劣ったり、コンプライアンスが小さくなりすぎる傾向にある。

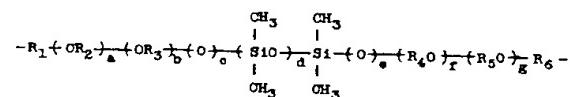
本発明に用いるエラストマーとは、血液適合性に優れた熱可塑性エラストマー、すなわち急性毒性、炎症、溶血、発熱反応などを惹起するような低分子溶出物を含まず、血液の生理機能に重大な負担を与えず、抗血栓性に優れたエラストマーである。このようなエラストマーとしては、たとえばポリスチレン系エラストマー、ポリウレタン系エラストマー、ポリオレフィン系エラストマー、ポリエステル系エラストマー

などがあげられ、これらを単独で用いてもよく、2種以上混合して用いてもよい。

前記発明に用いるエラストマーは、人工血管に成形されたときエラストマーとしての性質を有していればよいので、前記のようなエラストマーとエラストマーとしての性質を有さないポリマーとの組成物であっても、最終成形物がエラストマーとしての性質を有するならば、本発明に用いるエラストマーとして使用しうる。

前記エラストマーのうちでは、強度、伸び、耐久性、抗血栓性などに優れていることから、ポリエーテル型のセグメント化ポリウレタン（セグメント化ポリウレタンウレアも含む、以下同様）がより好ましい。さらにハードセグメントあるいはソフトセグメントにフッ素を含有するセグメント化ポリウレタンや、特開昭57-211358月公報に開示されている主鎖中にポリジメチルシロキサンを含有するセグメント化ポリウレタンが好ましい。とくに好ましいものはソフトセグメントの一部にポリジメチルシロキサ

ンを式：



（式中、 $R_1 \sim R_6$ は炭素数1以上のアルキレン基、好ましくは炭素数2～6のエチレン、ブロピレン、ブチレン、ヘキサメチレンなどのアルキレン基、 $a \sim h$ は0～30の整数、 $b \sim c$ 、 $e \sim h$ は0または1、 d は2以上、好ましくは5～135の整数を示す）のような形で含有するセグメント化ポリウレタンである。

本発明の人工血管の管壁は前記のようにエラストマーからなる多孔体で構成されているため、多孔体の中に占める孔の割合や孔を形成する隔壁の強度や用いるエラストマーの強度などを調節することによりコンプライアンスを生体血管のそれに近似させることができる。

生体血管のコンプライアンスは、動脈、静脈、血管の口径などによって異なる。したがって、

特開昭62-44260(4)

人工血管として好ましいコンプライアンスは、人工血管の口径や使用部位などによって異なり、一概には決められないが、本発明の人工血管はそれぞれの生体血管に近似したコンプライアンスを有するように製造される。通常の血行再建手術の行なわれる生体血管のコンプライアンスが0.1～0.8程度であるため、このような範囲にすることがさらに好ましいと考えられる。本発明の人工血管のコンプライアンスは前記のようにして調節することができ、0.1～0.8の範囲で任意のものを製造することができる。コンプライアンスが0.1～0.8の人工血管は、その太さなどにもよるが、動脈用血管などの用途に、また内径が1～6mmでコンプライアンスが0.1～0.5のものは、小口径動脈用人工血管として好適に使用しうる。

本明細書にいうコンプライアンスとは、式(1)：

$$C = \frac{\Delta V}{V_0 \cdot \Delta P} \times 100 \quad (1)$$

(式中、Cはコンプライアンス、V₀は内圧50

mmHgのときの測定血管の内容積、ΔPは内圧50mmHgから内圧150mmHgまでの100mmHg、ΔVは内圧50mmHgから内圧150mmHgまでの間に増加する測定血管の内容積である)で定義されるものである。実際の測定は閉鎖回路に測定血管を導入し、微量定量ポンプを用いてこの回路に液体を注入し、注入液量と回路内の圧力の変化とを測定し、式(1)からコンプライアンスを求めることができる。有孔性を有する人工血管の測定では、プレクロッティングなどにより管壁の遮断孔を塞ぐ処理をすればよい。

本発明の人工血管は血液適合性に優れたエラストマーから形成され、有孔性を有し、器質化に適した血液接触面を有し、かつ生体血管に近似したコンプライアンスを有するため、開存性に優れた人工血管であるが、手術時などのように異常に高い血圧が生じたばあいの破裂・損傷を防いだり、長期間にわたる耐久性の維持向上のためには、さらに繊維で構成された管状物で補強することが好ましい。とくに生体血管に近

似した応力-型曲線を有するように繊維で構成された管状物で補強することが好ましい。

本明細書にいう繊維で構成された管状物が補強された人工血管とは、エラストマーからなる多孔体に管状物の少なくとも一部が接触および(または)結合して存在する人工血管のことで、エラストマーからなる多孔体と管状物とが血圧や外部から加わる応力に対してほぼ同じ歪を起こす程度に両者の力学的相互作用があることを意味する。

前記繊維とは、糸、網、網、織物、編物、組物、不織布などをつくるのに使われる長さが径の100倍以上の細くて長い物体である。前記繊維は、生体に対して安全で、生体内での劣化が無視でき、滅菌操作に耐え、目的の管状物に加工できるものであれば、有機系、無機系を問わず、とくに規定されることなく使用しうる。加工性、入手の容易さ、しなやかさ、均一性などの点からすると、再生人造繊維、半合成繊維、合成繊維が好ましい。これらの具体例としては、

セルロース系、タンパク質系、ポリアミド系、ポリエステル系、ポリウレタン系、ポリエチレン系、ポリスチレン系、ポリ塩化ビニル系、ポリ塩化ビニリデン系、ポリフルオロエチレン系、ポリアクリル系、ポリビニルアルコール系などの繊維があげられる。これらのうちでも伸縮性を有する繊維であることがさらに好ましく、その具体例としては、ゴム系、ポリウレタン弹性系、ポリエステル弹性系などの繊維のように、繊維自体が伸縮性を有するものや、ウーリーナイロン、ウーリーテトロンに代表される伸縮性かさ高加工系や、ゴムあるいはスパンテックスフィラメントを伸張状態にして他の防纏糸あるいはフィラメントを巻き付けた糸であるカバードヤーンなどがあげられる。

前記繊維で構成された管状物とは、前記繊維、前記繊維の少なくとも1種以上を紡績した糸、前記繊維の少なくとも1種以上のマルチフィラメント、これらを組合せた糸などを用いた織物、編物、組物、不織布、これらを組合せた

ものなどである。また発泡ポリウレタンなどからなるスponジ状物などからなる管状物を用いてもよい。

前記管状物は繊維または繊維からつくられたものの単独で管状構造に形成されていてもよく、エラストマーからなる多孔体と組合わされて人工血管になったときに管状構造を形成するようになっていてもよい。加工性、作業性、生体血管に近似した応力-歪曲線をうるなどの点からすると、繊維の繊物からなる管状物であることが好ましく、伸縮性繊維をメリヤス編した管状物であることがさらに好ましい。

管状物はエラストマーからなる多孔体と組合せたとき、生体血管に近似したコンプライアンスや応力-歪曲線を有するものとなるものであれば、管状物であるかぎりとくに限定はない。

該管状物のこのような性質は、たとえば次の2つの方法の単独あるいは組合せで達成しうる。

1番目は繊維の組合せ頻度や組合わせる点

前記造孔剤を含有するエラストマー溶液はエラストマーと良溶媒（エラストマーを溶解する溶媒）と造孔剤とを必須成分として調製される。

前記良溶媒は、エラストマーの種類によって変化するので一概には決定できないが、たとえばN,N-ジメチルアセトアミド、N,N-ジメチルホルムアミド、N-メチル-2-ピロリドン、ジオキサン、テトラヒドロフランなどの溶媒があげられ、これらを単独で用いてもよく、2種以上併用してもよい。

また前記造孔剤は良溶媒に不溶であり、造孔剤を含有するエラストマー溶液から管状物を製造したのち該管状物から除去できるものであればよい。たとえば、食塩、炭酸カルシウム、グルコース、デンパン、カゼイン、コラーゲン、ゼラチン、アルブミンなどで、粒径が10~74μm程度のものが好適な具体例としてあげられる。

さらに前記凝固液は良溶媒とは良く混和するが、エラストマーを溶解しないものであればよい。

特開昭62-44260(5)

をルーズに調節したりする方法である。

2番目は伸縮性の繊維を使用する方法である。

つぎに本発明の人工血管の製造方法を説明する。

(工程1)

造孔剤を含有するエラストマー溶液を心棒上にコーティングしたのち、乾燥させる工程。

(工程2)

同じエラストマー溶液を該乾燥物上にコーティングしたのち凝固液に浸漬し、エラストマーを析出させる工程。

(工程3)

工程2を必要に応じて繰返し、所定の内厚をえたのち、心棒を抜取り、造孔剤や溶媒を完全に除去する工程。

本発明の人工血管は前記の方法で製造することができるが、繊維で構成された管状物で補強するばあいは、工程1あるいは工程2のいずれかの段階で心棒上に繊維で構成された管状物を存在させればよい。

たとえば水、低級アルコール類、エチレンリコール、アロビレングリコール、1,4-ブタジオール、グリセリンなどがあげられ、これらを単独で用いてもよく、2種以上併用してもよい。

このようにしてえられた本発明の人工血管は、有孔性を有し、器質化に遇した血液接觸面を有するため、開存性に優れている。さらにコンプライアンスが生体血管に近似している。また繊維で構成された管状物で補強するばあいには、その応力-歪曲線を生体血管に近似させうる。さらに本発明の人工血管の管壁が実質的にエラストマーの連続した多孔体であるため、総合計の貫通性がよく、総合が容易である、総合計の貫通孔が自己閉塞する、血圧のかかった実際の使用状態では結節を生じ難い、などの有用な性質をも併有する。

したがって本発明の人工血管は、動脈や静脈などの血行再建手術にあたって、人工血管、バイパス用人工血管、バッヂ用材料に使用しうる

特開昭62-44260(6)

とともに、プラッドアクセスなどにも使用しうる。とくに 0.1~0.8のコンプライアンスを有する動脈用人工血管として用いることが好ましく、現在臨床に使用する人工血管が存在しない 0.1~0.5のコンプライアンスを有し、内径約 1~6μm の小口径動脈用人工血管としても使用することができる。それゆえ膝から下の動脈の血行再建や大動脈・冠状動脈バイパス用人工血管として好適に使用することができる。また本発明の人工血管は、尿管などの生体の柔らかい管状物の代替えとしての使用も可能である。

つぎに実施例にもとづいて本発明の人工血管の製造法を説明する。

実施例 1

4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート 27.35 部（重量部、以下同様）とポリオキシテトラメチレングリコール（分子量 2000）54.7部を用いてアレボリマーを合成したのち、エチレングリコール 4.75 部と両末端ポリエチレングリコールポリジメチルシロキサン（両末端のボ

ンを抽出除去したのち水洗浄を行ない、人工血管をえた。

えられた人工血管は内径約 3mm、外径約 4mm であった。この人工血管を走査型電子顕微鏡倍率約 1000倍で観察したところ、内側表面に平均径約 10~15μm の円形~梢円形の孔と平均径約 1~2μm の円形の穴がそれぞれ約 6×10^5 個/mm²、約 65×10^5 個/mm² 存在した。走査型電子顕微鏡で観察したばかりの影像にもとづく説明図を第 1 図に示す。

つぎにこの人工血管に 120mmHg の水圧で水をとおしたところ、人工血管の内側表面 1cm 当り 1 分間に約 110ml の水が人工血管の外側表面に浸透し、有孔性を有することがわかった。

つぎにこの人工血管を牛血でアレクロッティングしたのち、長さ 8cm に切って、閉鎖回路に挿入し、1 ストローク 0.05 秒送液する定量ポンプで牛の ACD 血液をこの閉鎖回路に送液して、内圧の変化を測定した。定量ポンプのストローク数と内圧の変化とから、式(1)よりコンプライ

リエチレングリコールの平均分子量 681、ポリジメチルシロキサンの平均分子量 1040) 13.2部を用いて鎖延長を行ない、主鎖にポリジメチルシロキサンを含有するセグメント化ポリウレタンを合成した。

えられたポリウレタンの抗張力は 350kg/cm、伸びは 670% であり、ジスマンプロットから求めた臨界表面張力は 28dyn/cm であった。

このポリウレタン 10g と平均粒径 20~30μm のカゼイン 10g にジオキサン 45ml と N,N-ジメチルアセトアミド 45ml の混合溶媒を加えて攪拌した。この分散溶液に直徑 3mm のガラス棒を浸漬したのち取り出し、ガラス棒上に前記分散溶液を均一にコーティングし、約 80°C の熱風で乾燥した。

つぎに該ガラス棒を前記分散溶液に浸漬せたのち取り出し、表面に分散溶液を付与させたのち水に浸漬し、エラストマーを析出させた。この操作をさらに 2 回行なったのちガラス棒を抜取り、管状構造物を得た。この管状構造物を pH 13 の水酸化ナトリウム水溶液に浸漬し、カゼイ

アンスを測定したところ、0.4 であった。

つぎにこの人工血管を雑種成犬の大動脈に約 7cm の長さで移植したところ、2 カ月以上の耐存性を示した。

またこの人工血管は、任意の箇所で切断しても切断部分がほつれることなく、縫合性にも優れ、総合計の貫通孔は針を隙くと自己閉塞した。また該人工血管は、内圧が 50~150mmHg 存在する状態で結節を生じ難かった。

以上のことからこの人工血管は優れたものであり、とくに小口径動脈用人工血管として優れていることがわかる。

実施例 2

実施例 1において分散溶液にガラス棒を浸漬する最後の操作の前に、ウーリー加工した 50 デニールのポリエステル繊維を 24 計のリボン織機を用いて編んだ管状物をエラストマーが析出しているガラス棒上にかぶせた。これ以外の操作は実施例 1 と同様に行ない、繊維で構成された管状物で補強された人工血管を得た。

特開昭62-44260(フ)

この人工血管を実施例1と同様にして観察したところ、血液接触面の形状は実施例1と同じであった。実施例1と同じ方法で測定したコンプライアンスは0.3であり、透水量は約40ml/minであった。この人工血管の応力-歪み曲線は生体血管のそれに近似していた。

この人工血管の耐存性は、実施例1と同じ方法で測定した結果、2カ月以上の耐存性を示した。

[発明の効果]

本発明の人工血管は、血液適合性に優れたエラストマーから構成され、血液接触面に器質化に適した孔や穴が存在するため耐存性に優れている。また管壁が多孔性からなっているためコンプライアンスも生体血管と同等の範囲にしうる。それゆえ、現在行なわれている血行再建手術用の人工血管としてはもとより、現在臨床に使用されていない小口径動脈用人工血管としても使用可能である。

4 図面の簡単な説明

第1図は実施例1でえられた本発明の人工血管の血液接触面を走査型電子顕微鏡で観察したばいの影像にもとづく説明図である。

(図面の符号)

- (1) : 孔
- (2) : エラストマー部分
- (3) : 穴

特許出願人

東洋化学工業株式会社

代理人弁理士

朝日亮宗太ほか1名



第1図

